

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
11074	3	前期	選択	2	30
授業科目名 (英文)	学校健康相談 (School Health Counseling)				
担当教員名	砂村京子				
授業の概要及び到達目標					
<p>○概要</p> <p>本科目では、養護教諭が行う健康相談が、教育活動の中でどのように位置づけられているか、実際の活動では現代的健康課題への取り組みがどのようになされているかについて、養護教諭という視点と教育活動全体という視点をもって学習する。また、事例検討を通して、保健室で行われる救急処置場面からの健康問題の捉え方、健康相談の進め方など、具体的な方法を学習する。</p> <p>○目標</p> <p>①学校における健康相談の法的根拠や教育活動における現代的課題を説明することができる。 ②養護教諭が行う健康相談の専門性や独自性について説明することができる。 ③健康相談を進めていくための具体的な方法を修得し対応することができる。</p>					
準備学習等					
<p>配付された資料を事前に読み、各自の課題をもって臨むこと。</p> <p>第1回～第3回 資料をまとめておく。 第4回～第5回 理論を相談場面に活用するイメージをもって授業に臨むこと。 第6回～第7回 包帯法などの救急処置に関する技術を調べておく。 第8回～第15回 資料や事例を事前に読んでおき、相談場面をイメージして、自分なりの養護教諭としての対応を考え、ミニレポートを作成しておくこと。 ○事前学習（予習復習）に必要な時間は60時間です。</p>					
成績評価の方法	定期試験 60%、レポート 40%とする。				
テキスト	「新版 養護教諭の行う健康相談」（大谷尚子他編著：東山書房）※ 「赤十字 救急法講習教本」（日本赤十字社：日赤サービス） ○必要な資料を適宜配付する。				
参考図書	「生涯人間発達論」（服部祥子：医学書院）※ 「子どものこころに寄り添う養護教諭の相談的対応」（養護教諭の相談を学ぶ会編：学事出版）※ ○事例等を講義内で適宜提示する。				
備考	養護実習事前事後指導、養護実習、教職実践演習の履修前提科目である。 教員のオフィスアワーについては看護学科「オフィスアワー」の項を参照ください。 第8回～第15回のレポートは、添削後返却するので、以降の学修に活用してください。				

授 業 計 画

〔導入〕

第1回：オリエンテーション／グループエンカウンター／学校健康相談とは

〔子どもとは〕

第2回：子どもってなんだろう

第3回：子どものヘルスニーズ

〔健康相談の実際〕

第4回：健康相談の事例から学ぶ(1) 小学校事例

第5回：健康相談の事例から学ぶ(2) 中学校事例

〔救急処置から始まる健康相談の実際〕(砂村)

第6回：保健室における救急処置の知識(緊急度の判断と処置)

一日赤指導員による講義を予定

第7回：保健室における救急処置の技術(外傷を中心に)

一日赤指導員による実技講習を予定

第8回～第15回は以下の授業形態とし、テーマ別の健康相談を考える。

(A)は講義と事例を用いたディスカッションを中心とする。

(B)は講義と実技を含むロールプレイを中心とする。

(A)・(B)とも、事前に資料を読んでミニレポートを作成する。

第8回：(A) いじめ

第9回：(B) 眼・歯・耳・皮膚の外傷

第10回：(A) 摂食障害・自傷行為

第11回：(B) 嘔吐／嘔吐物の処理方法

第12回：(A) 虐待

第13回：(B) アレルギー／エピペンの使用方法

第14回：(A) 医療的ケア

第15回：(A) 保健室登校

定期試験